

2017(平成29)年9月実施

第46回 足立区政に関する世論調査 《概要版》

足立区では、昭和47年から区民の方を対象とした世論調査を実施しており、今回は第46回となります。世論調査の実施にあたっては、多くの区民の皆様にご協力いただき心からお礼を申し上げます。調査結果は、区政運営のための基礎資料として今後の施策に活用してまいります。なお、「第46回足立区政に関する世論調査」の全容をお知りになりたい方は、区のホームページ、区内の各図書館及び区役所区政資料室でご覧いただけます。

今回の調査では、区の取り組みについて、現状評価が低く、重要度の高い分野として、「防災対策」「治安対策」「交通対策」などが、前回同様にあげられています。

ただし、継続テーマに対する回答で、「治安が改善している」ことへの認知度や「居住地域の治安」が良いという評価は、年々上昇しています。

また、「足立区に愛着をもっている」という方は、ここ数年、7割台半ばで推移しています。

- 定住性
- 大震災などの災害への備え
- 洪水対策
- 区の情報発信のあり方
- 健康
- スポーツ
- ビューティフル・ウィンドウズ運動
- 環境・地域活動
- 「孤立ゼロプロジェクト」など
- 協働・協創
- 区の取り組み

調査の概要

- ◇対象者…… 20歳以上の区民
- ◇対象者の抽出…… 単純無作為抽出法
- ◇対象者数…… 3,000人
- ◇調査方法…… 郵送配布郵送回収法
- ◇回収数(率)…… 1,664人 (55.5%)
- ◇調査時期…… 2017(平成29)年9月



2018(平成30)年3月

足立区

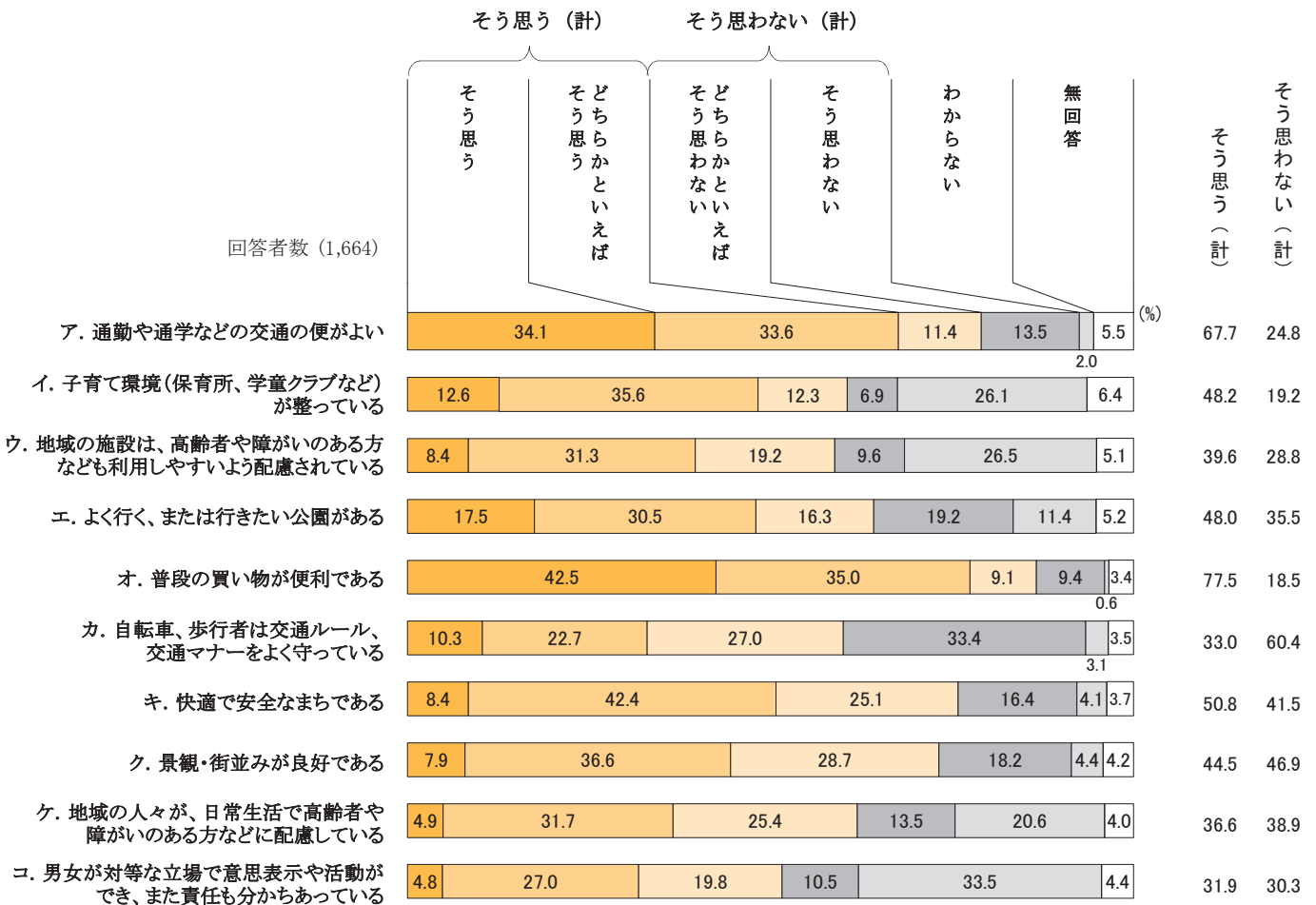
定 住 性

住んでいる地域について感じていることを、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、〈普段の買い物が便利である〉が77.5%で最も高く、以下〈通勤や通学などの交通の便がよい〉67.7%、〈快適で安全なまちである〉50.8%の順となっています。



住まいの地域についての感じ方

【普段の買い物が便利である】と感じている人は、7割台後半となっています。



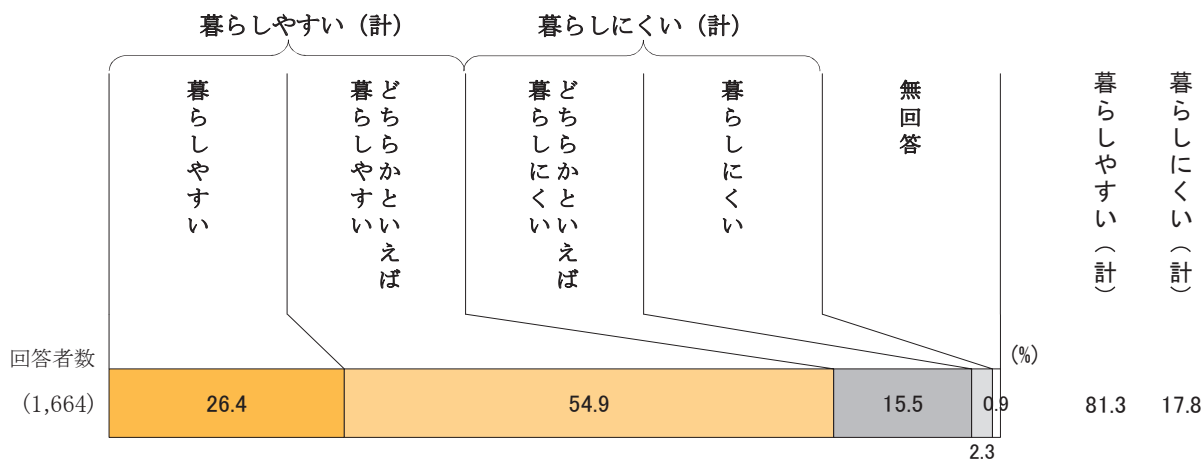
参考 1 : 百分比 (%) と百分比 (%) を合わせる場合、本来の実数値を合わせて算出した百分比を記しているため、その百分比は紙面上の百分比の合計と合わない場合があります。

2 : 表題に (複数回答) と表記されている場合は、回答数に制限がないことを意味しています。



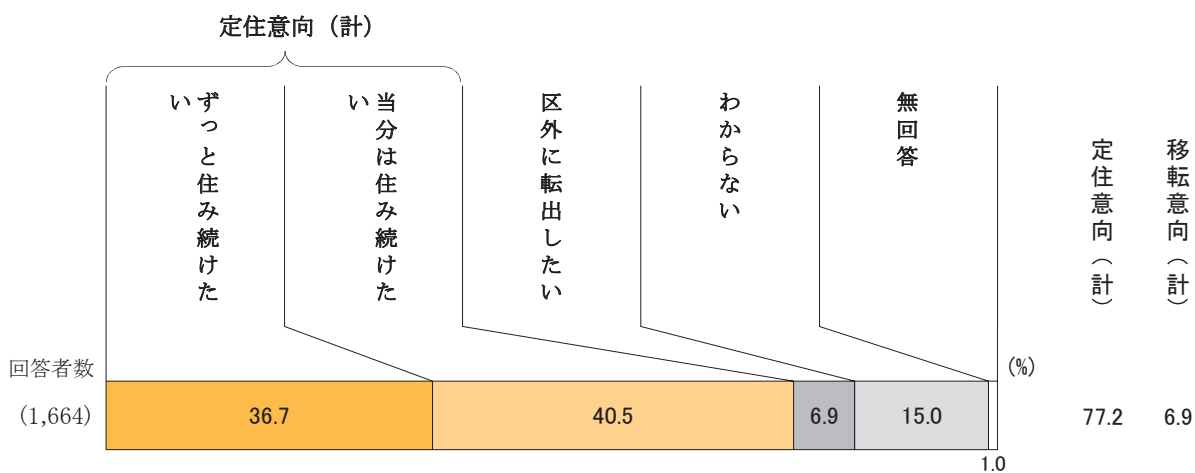
地域の暮らしやすさ

【暮らしやすい】は8割強で、前回から微増しています。



定住意向

【定住意向】をもっている人は7割台後半となっています。



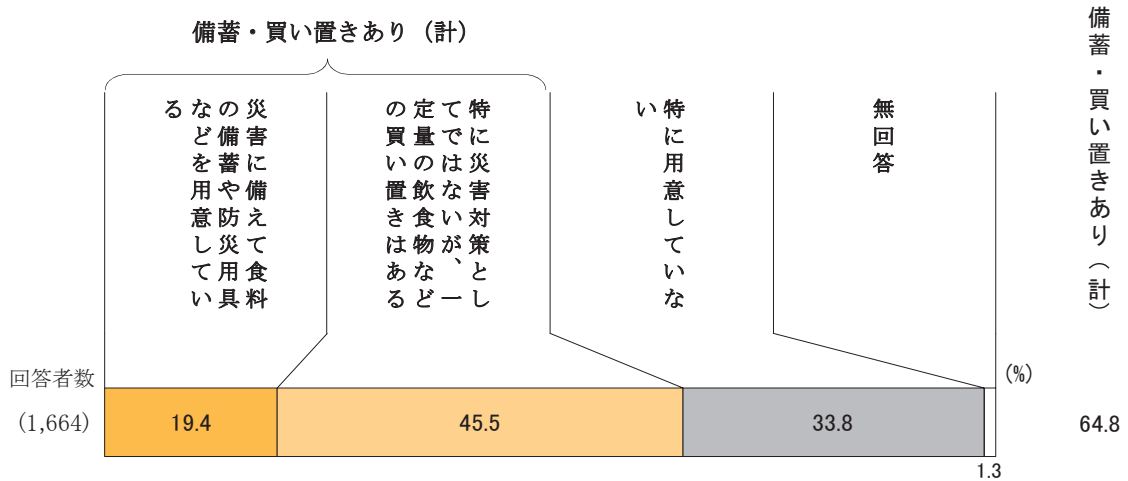
大震災などの災害への備え

災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が19.4%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が45.5%で、両者を合わせて【備蓄・買い置きあり】は64.8%となっています。一方、「特に用意していない」は33.8%となっています。【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聞いたところ、「水」が91.3%で最も高く、以下「食料」(90.3%)、「あかり」(77.4%)の順となっています。



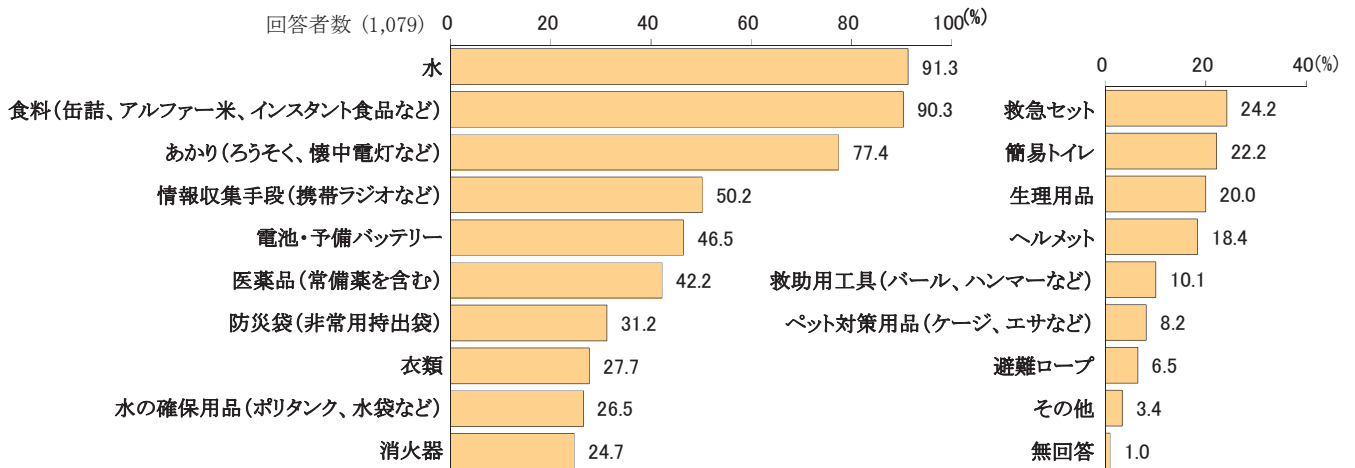
備蓄や防災用具などの用意

家庭備蓄をしていない方は3割台で、前回から微増しています。



備蓄や防災用具、買い置きなどの内容 (複数回答)

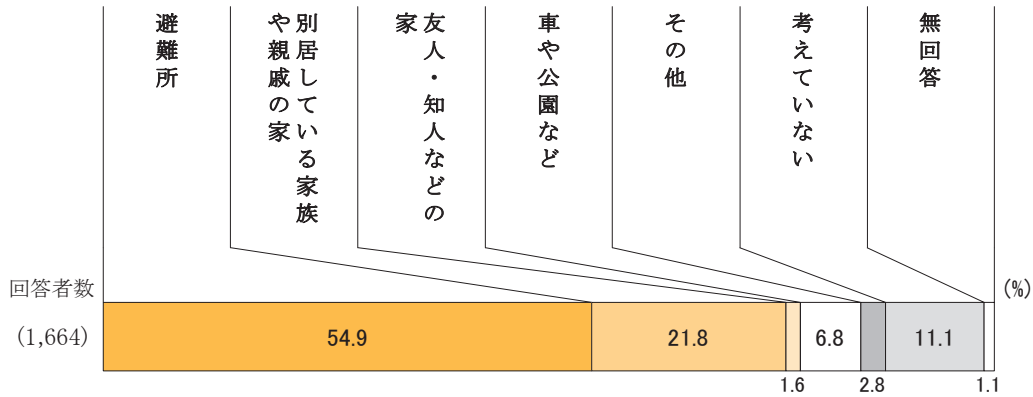
「水」「食料」が9割強、「あかり」が7割台後半で上位となっています。





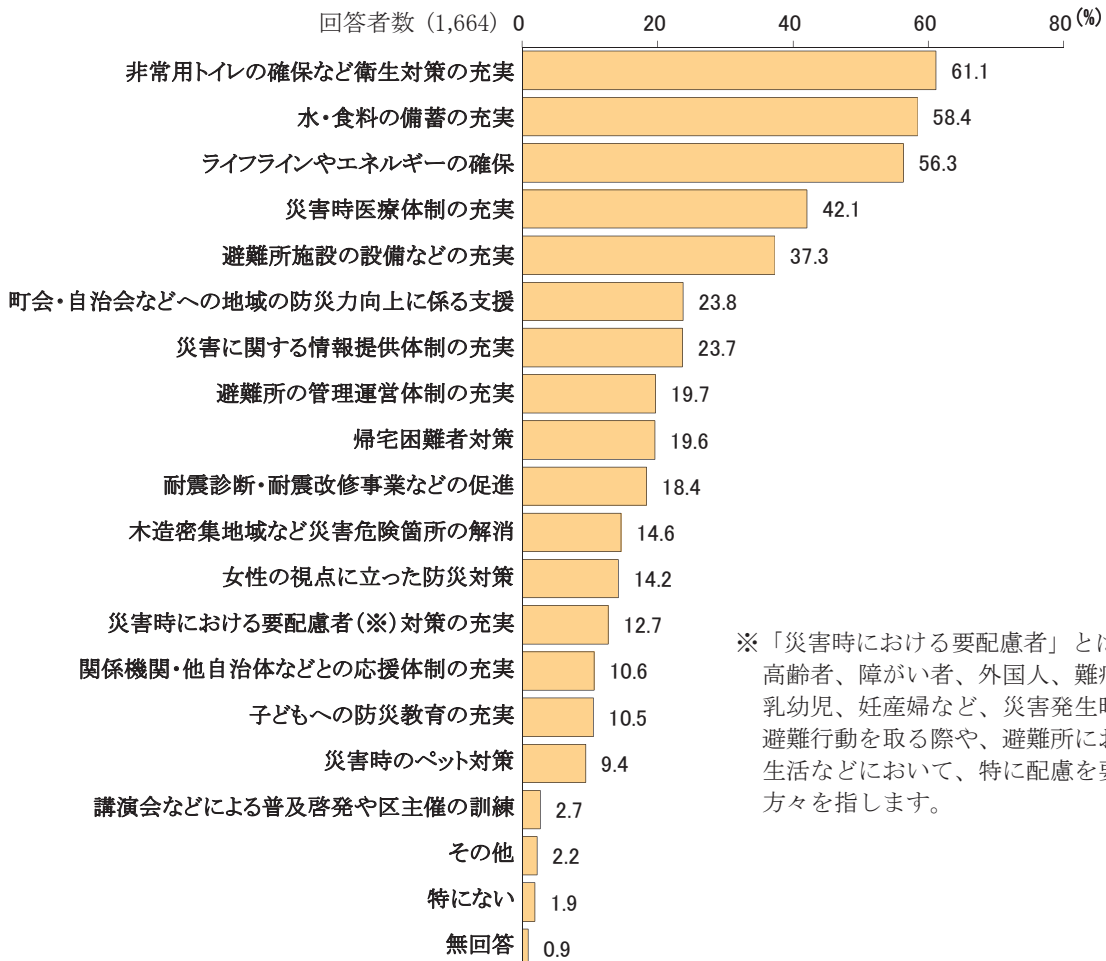
大規模災害時の避難生活場所

「避難所」という方が半数を超えています。



大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと（〇は5つまで）

“衛生対策の充実”が6割強、“水・食糧の備蓄の充実”“ライフライン・エネルギーの確保”が5割台後半で上位となっています。



※「災害時における要配慮者」とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

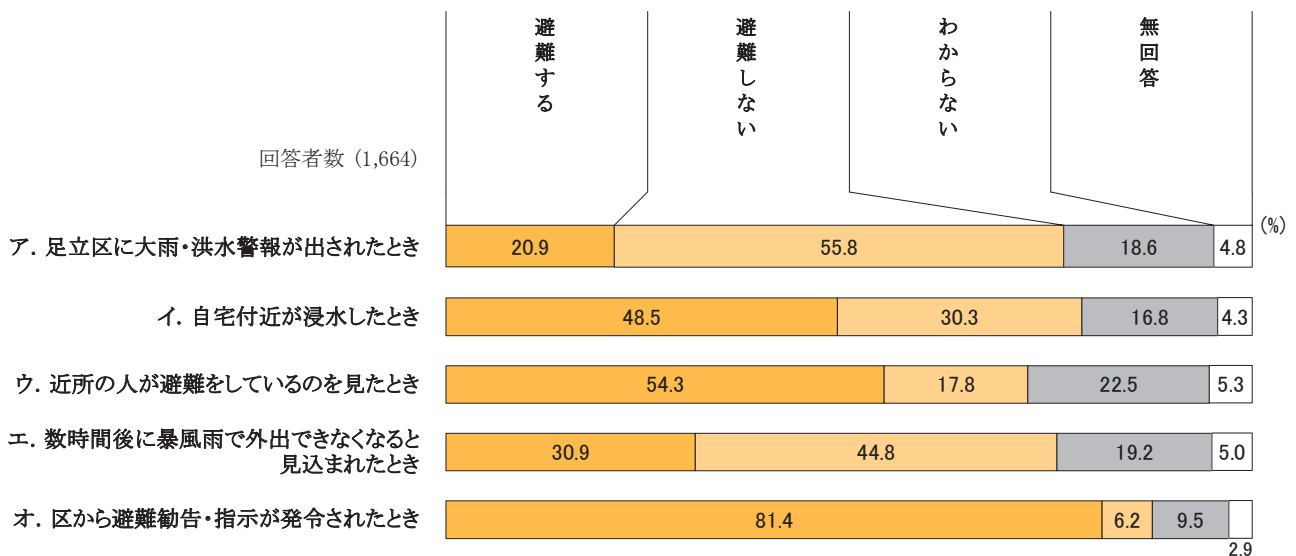
洪水対策

河川はん濫による浸水被害の際の対処として、「避難する」は、“区から避難勧告・指示が発令されたとき”が81.4%で最も高く、以下“近所の人が避難しているのを見たとき”が54.3%、“自宅付近が浸水したとき”が48.5%となっています。



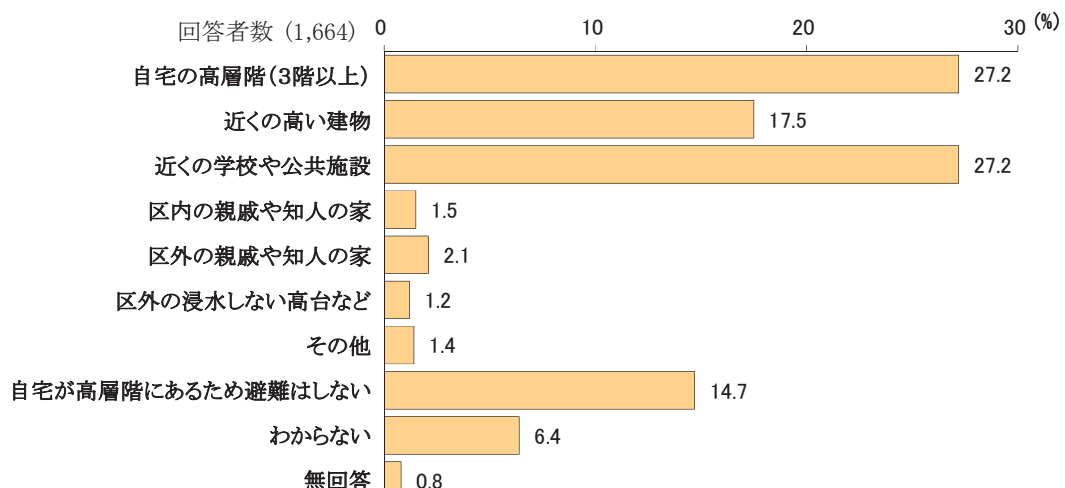
河川はん濫による浸水被害の際の対処

“区から避難勧告・指示が発令されたとき”に避難をする方が8割を超えています。



荒川がはん濫した際の最初の避難先

「自宅の高層階」「近くの学校や公共施設」が2割台後半で並んでいます。



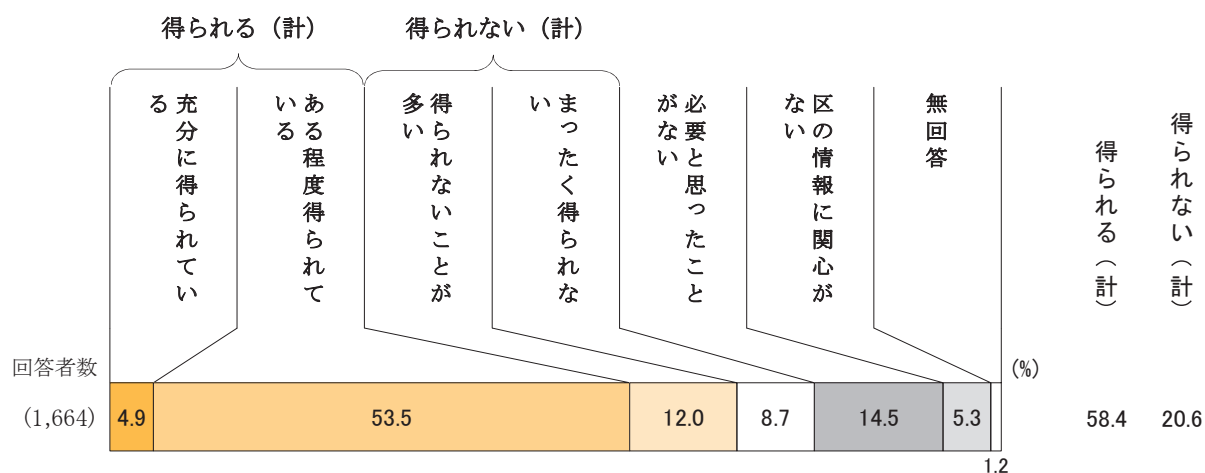
区の情報発信のあり方

必要な時に必要とする情報を得られているかについては、「十分に得られている」が4.9%で、これに「ある程度得られている」の53.5%を合わせた【得られる】は58.4%となっています。一方、「得られないことが多い」は12.0%、「まったく得られない」は8.7%となっており、その理由を聞いたところ、「情報の探し方がわからない」が46.4%で最も高く、次いで「情報が探しにくい」が17.5%となっています。



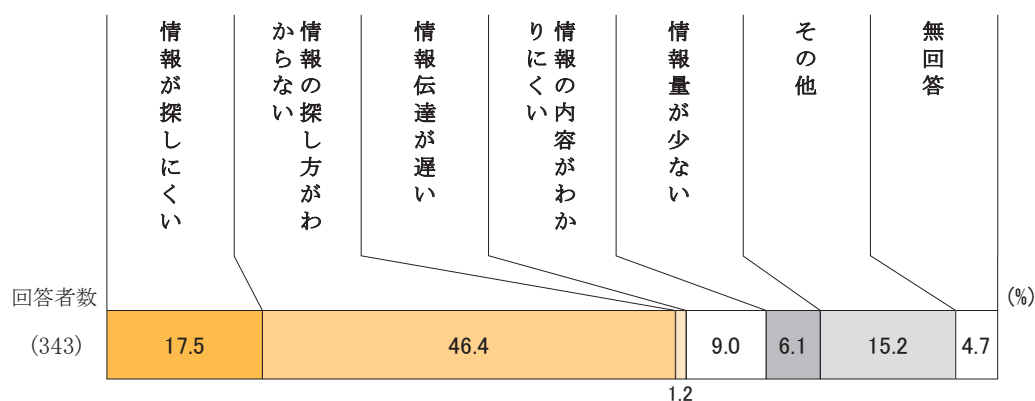
必要な時に必要とする区の情報入手状況

必要な時に【得られる】が5割台後半となっています。



区の情報得られない理由

「情報の探し方がわからない」が4割台半ばとなっています。



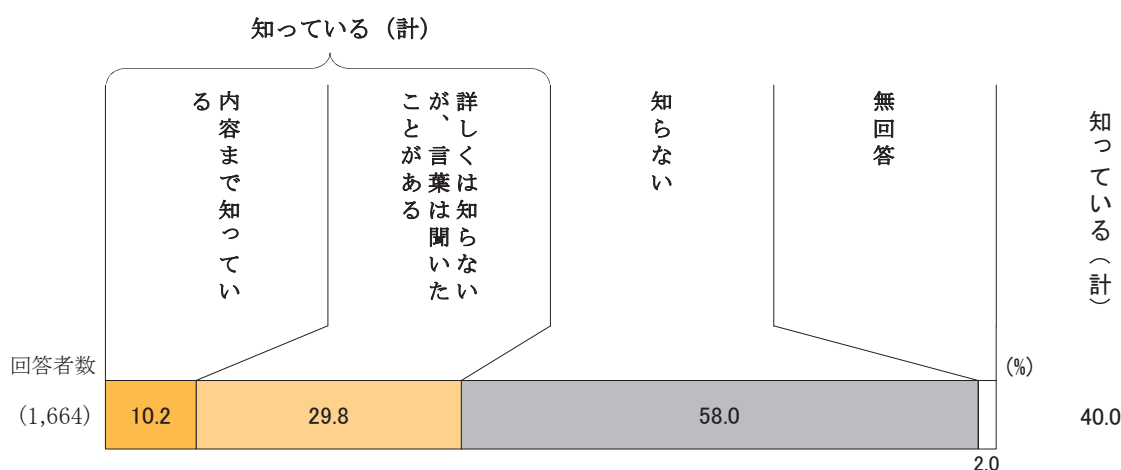
健康

《あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～》という区のキャッチフレーズを「内容まで知っている」は10.2%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」の29.8%を合わせた【知っている】は40.0%となっています。



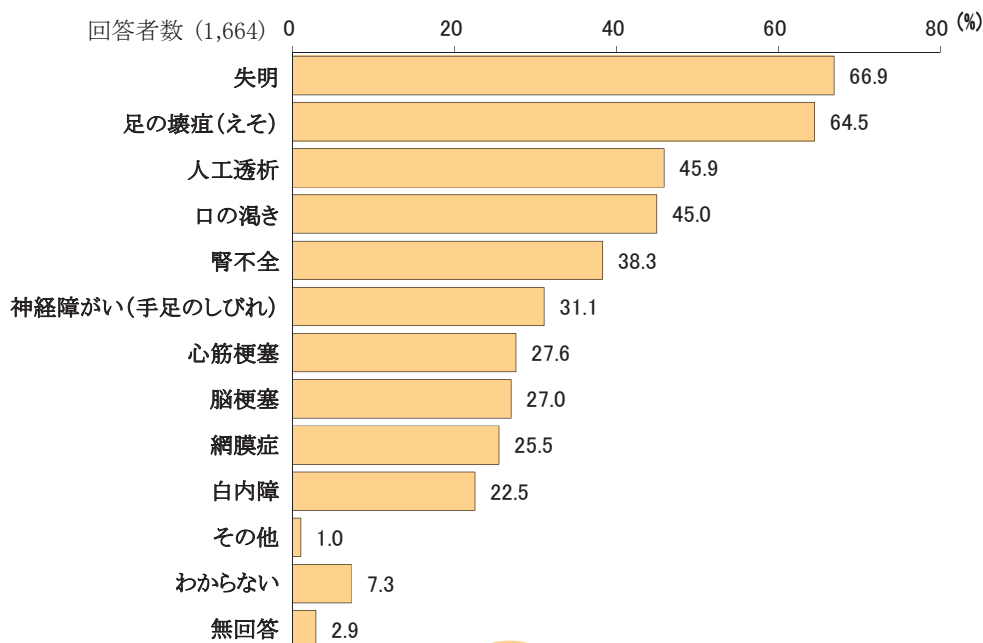
区のキャッチフレーズの認知状況

認知されている方は4割となっています。



糖尿病の進行による病気や障がいの認識 (複数回答)

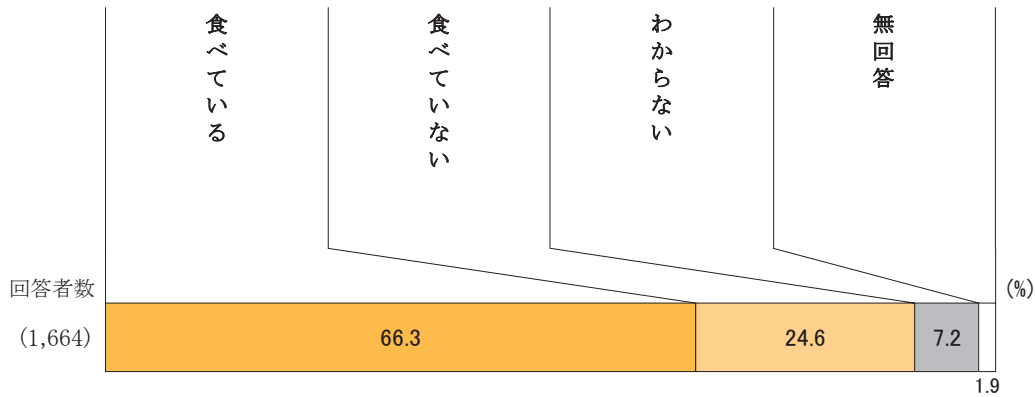
「失明」「足の壊疽(えそ)」が6割台半ばで高くなっています。





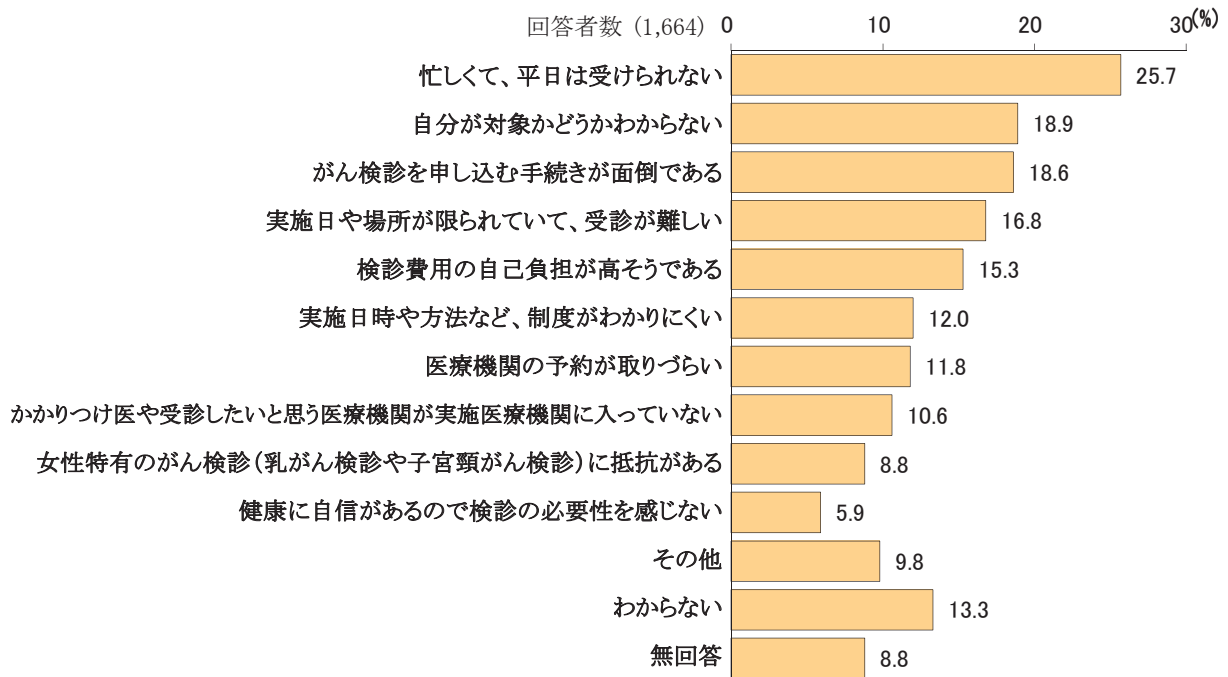
野菜から食べ始めることの実践状況

野菜から「食べている」方は6割台半ばとなっています。



がん検診制度の感想（複数回答）

「忙しくて、平日は受けられない」が2割台半ばとなっています。



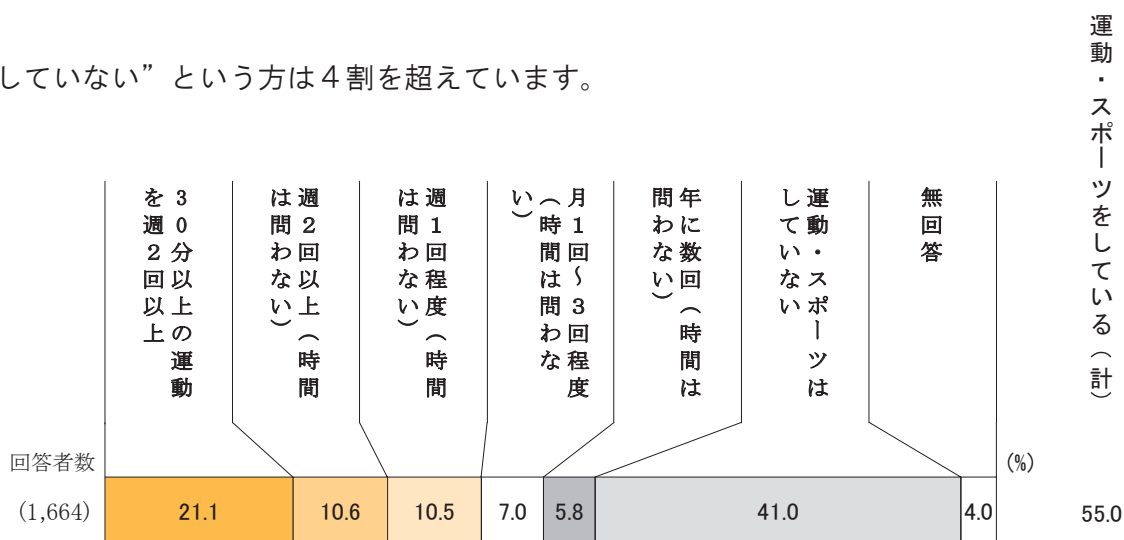
スポーツ

「運動・スポーツはしていない」という方は41.0%となっています。行っている運動・スポーツとしては、「ウォーキング」が44.0%で最も高く、以下「健康体操」(18.9%)、「筋力トレーニング」(16.6%)と続いています。



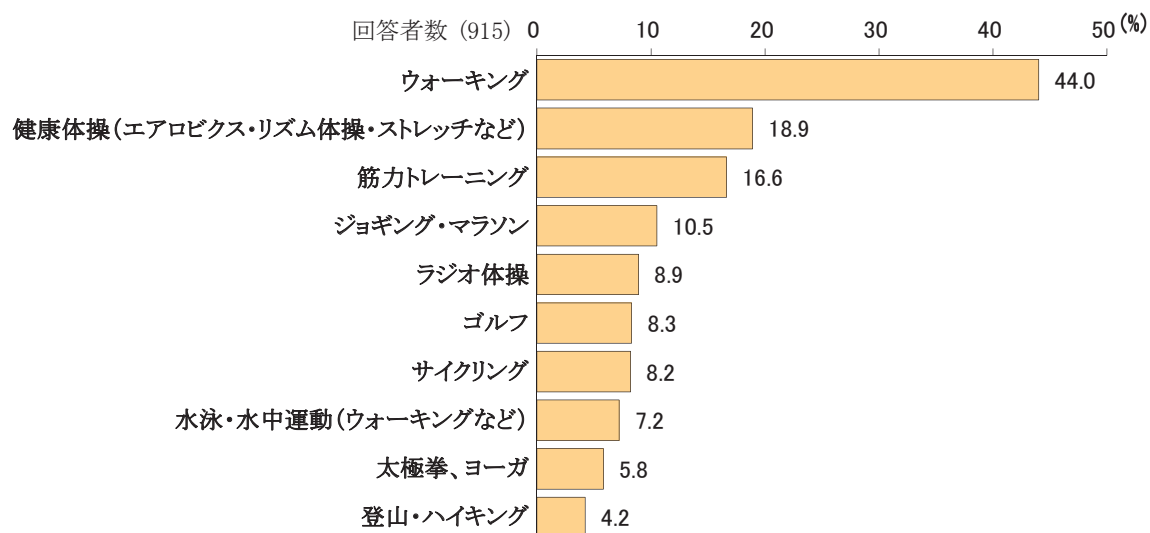
日常的な運動・スポーツの実施状況

“していない”という方は4割を超えています。



継続的に実施している運動・スポーツ(複数回答/上位10項目)

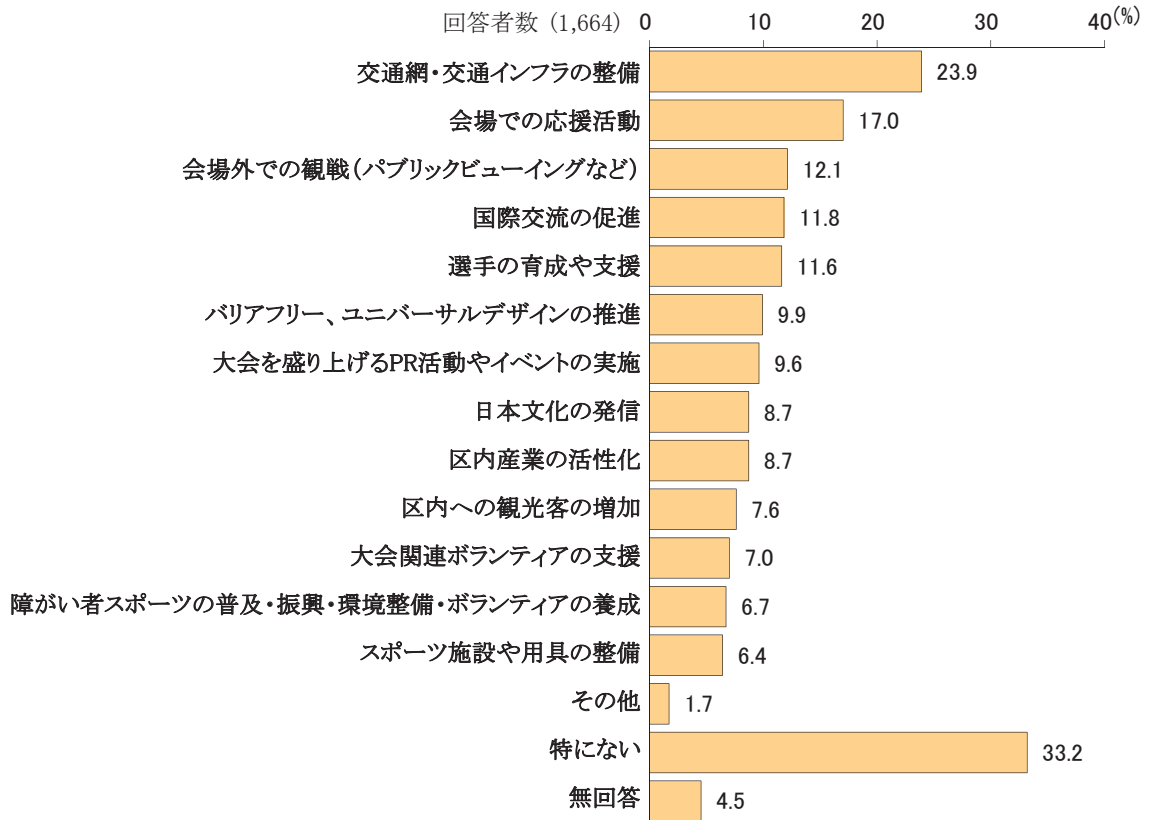
「ウォーキング」が4割台半ばと高くなっています。





2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること

「交通網・交通インフラの整備」が2割台半ばも、「特にない」が3割を超えています。



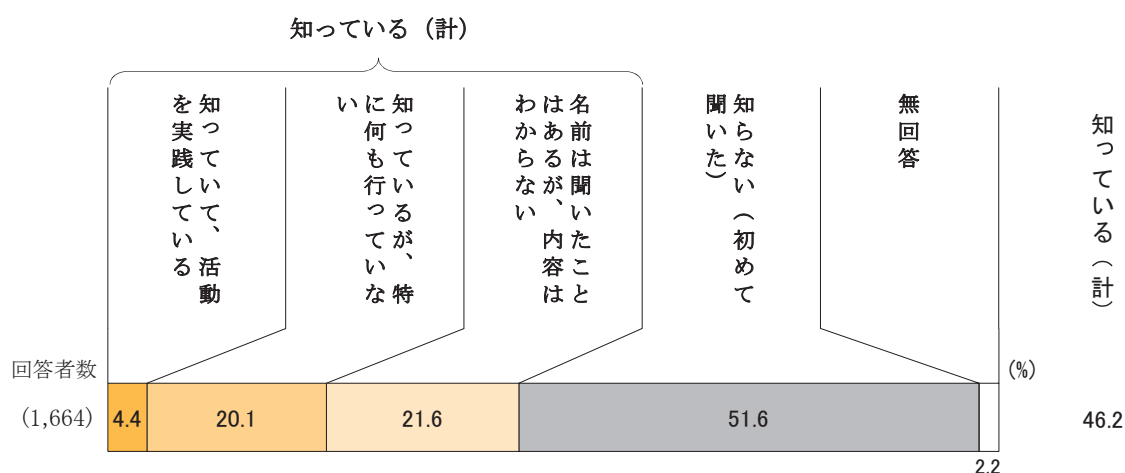
ビューティフル・ウィンドウズ運動

《ビューティフル・ウィンドウズ運動》について、「知っている、活動を実践している」は4.4%で、これに「知っているが、特に何も行ってない」(20.1%)、「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」(21.6%)を合わせた【知っている】は46.2%となっています。



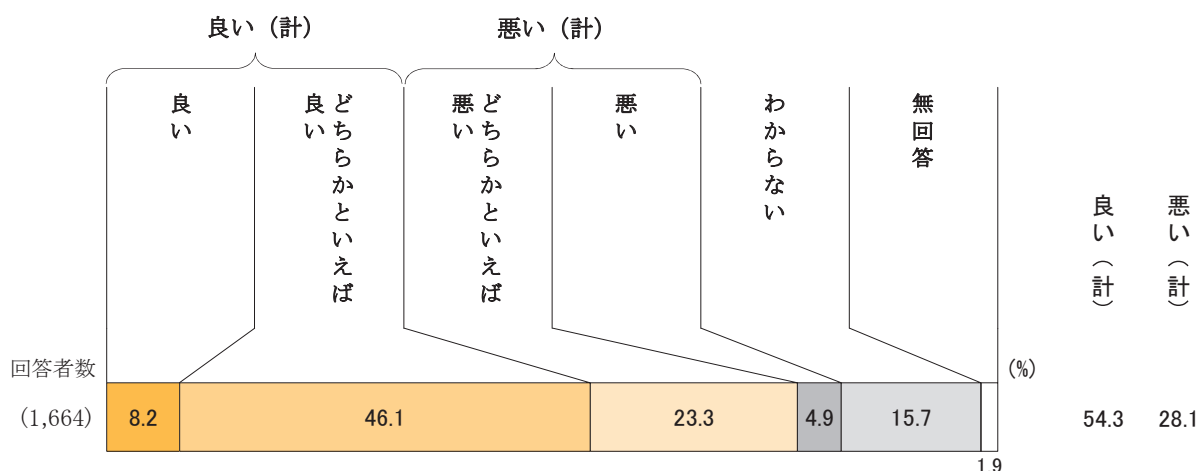
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

【知っている】は4割台半ばとなっています。



居住地の治安状況

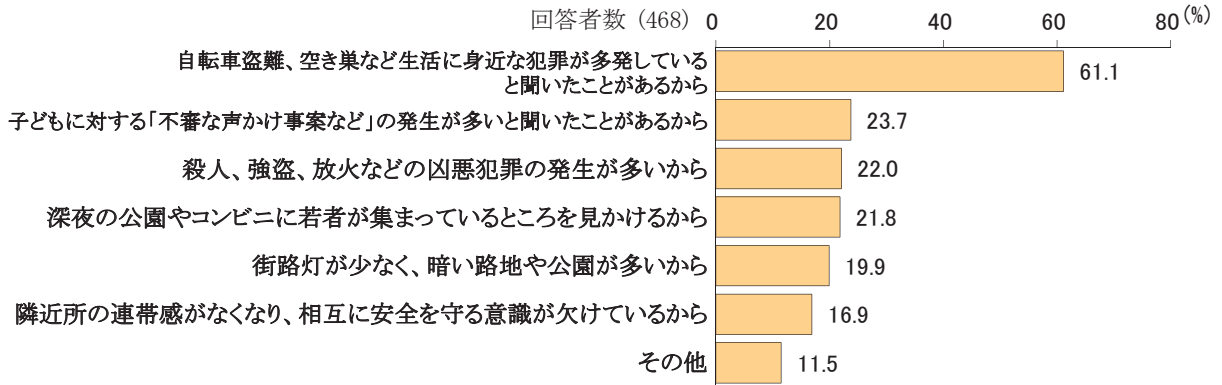
平成25年度調査から【良い】と感じている人の方が多くなり、その割合は年々上昇しています。





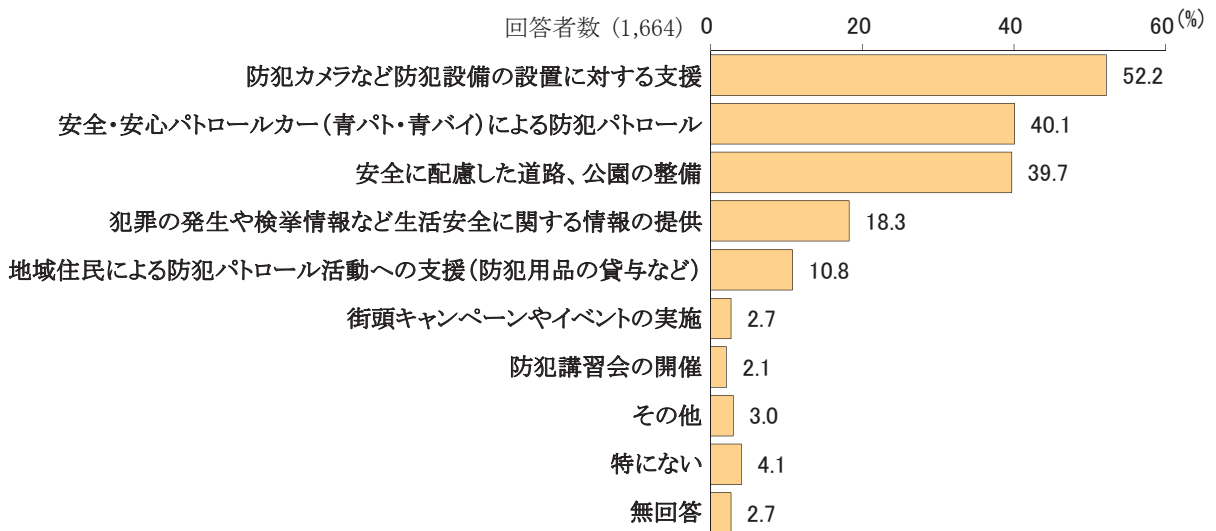
区内の治安が悪いと感じる点（〇は2つまで）

“生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから”が6割を超えています。



治安対策として区に力を入れてほしいこと（〇は2つまで）

“防犯設備の設置に対する支援”が5割強、“安全・安心パトロールカーによる防犯パトロール”“安全に配慮した道路、公園の整備”が4割前後となっています。



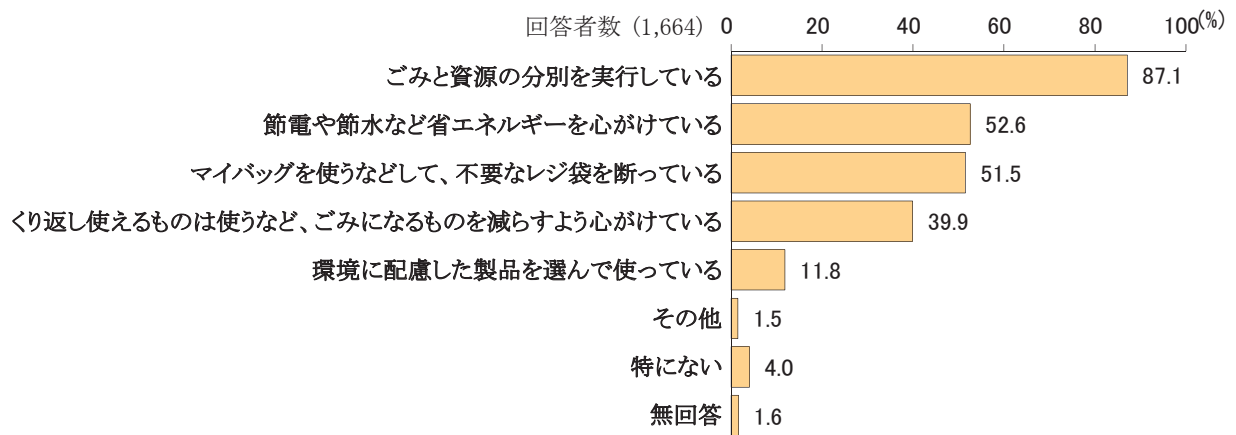
環境・地域活動

環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が87.1%で最も高く、以下「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(52.6%)、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(51.5%)の順となっています。



環境のために心がけていること（複数回答）

上位3項目とも、前回から微増しています。



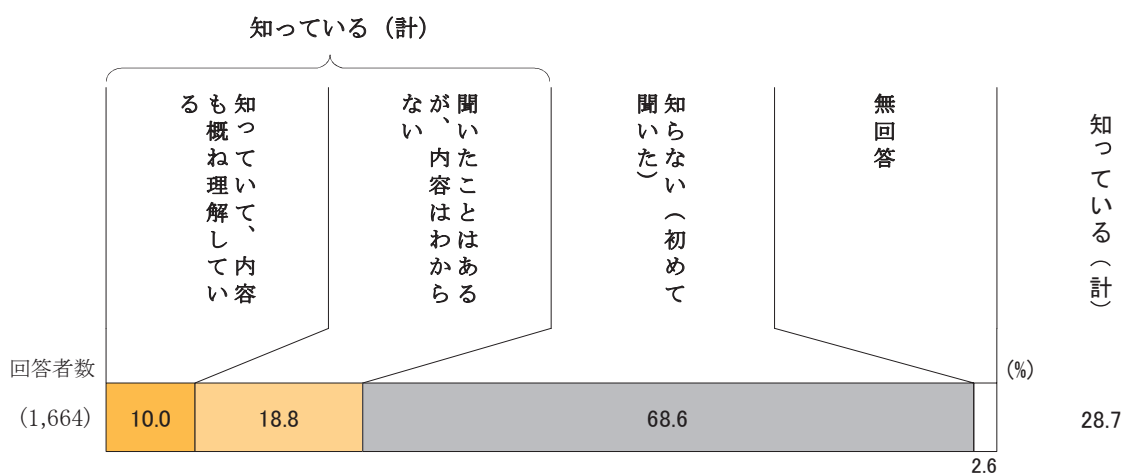
「孤立ゼロプロジェクト」など

《孤立ゼロプロジェクト》について、「知っていて、内容も概ね理解している」が10.0%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の18.8%を合わせた【知っている】は28.7%となっています。一方、「知らない（初めて聞いた）」は68.6%を占めています。



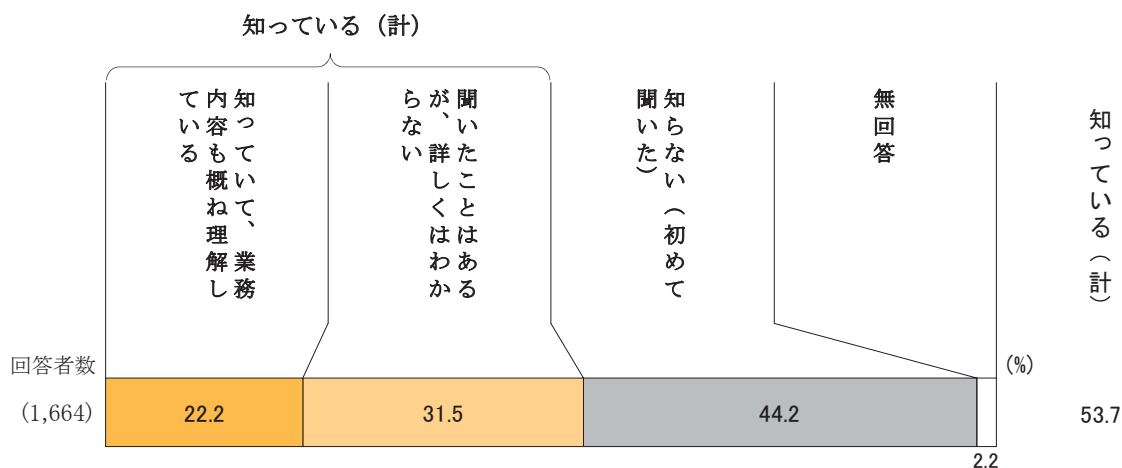
「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

【知っている】が3割弱、「知らない（初めて聞いた）」は7割弱となっています。



「地域包括支援センター」の認知状況

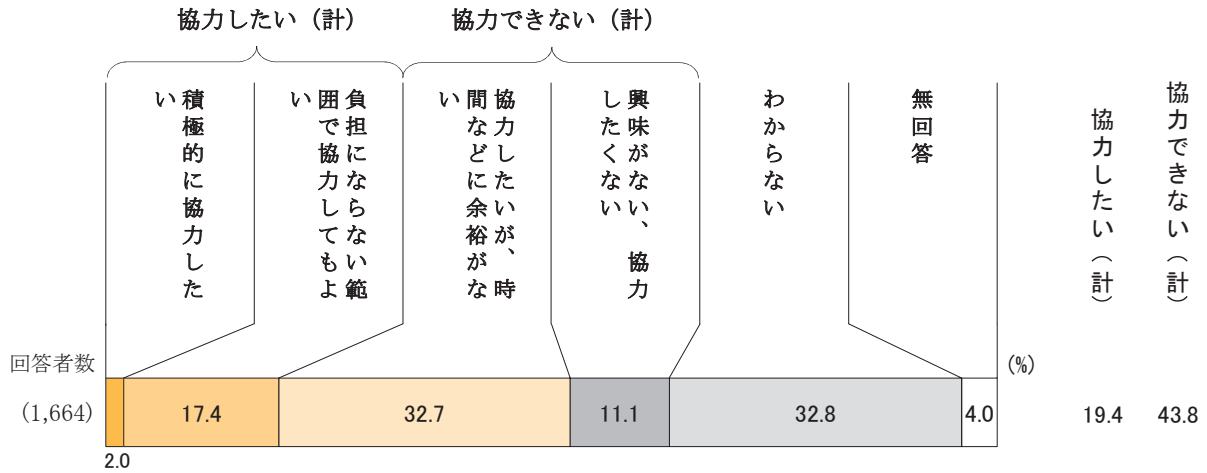
【知っている】が5割台前半となっています。





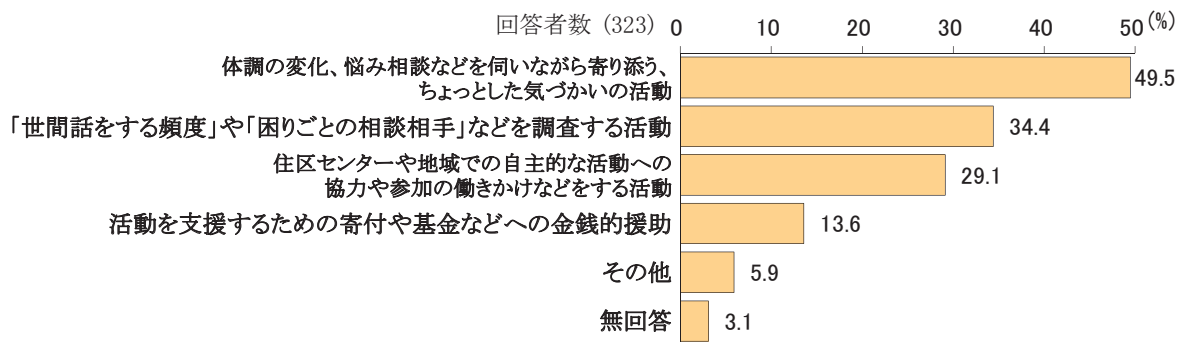
高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

【協力したい】の2割弱に対して、【協力できない】は4割前半となっています。



協力意向がある活動内容 (複数回答)

“ちょっとした気づかいの活動”が5割弱となっています。



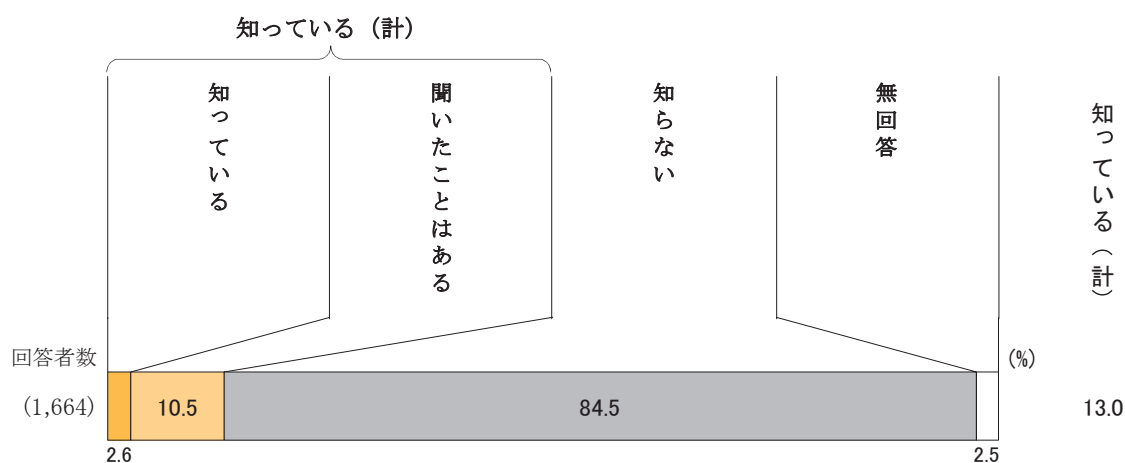
協働・協創

《協創》について「知っている」が2.6%で、これに「聞いたことはある」(10.5%)を合わせた【知っている】は13.0%となっています。一方、「知らない」は84.5%を占めています。



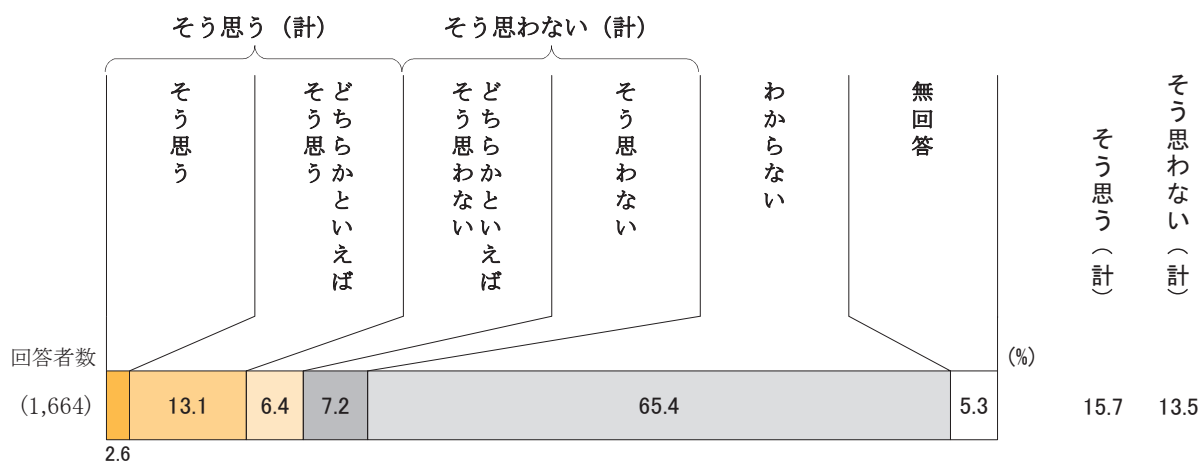
「協創」の認知

【知っている】は1割台前半になっています。



区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

【そう思う】と【そう思わない】の差は僅かになっています。



区 の 取 り 組 み

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「防災対策」「治安対策」「交通対策」などは、現状評価が低く、重要度が高くなっています。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

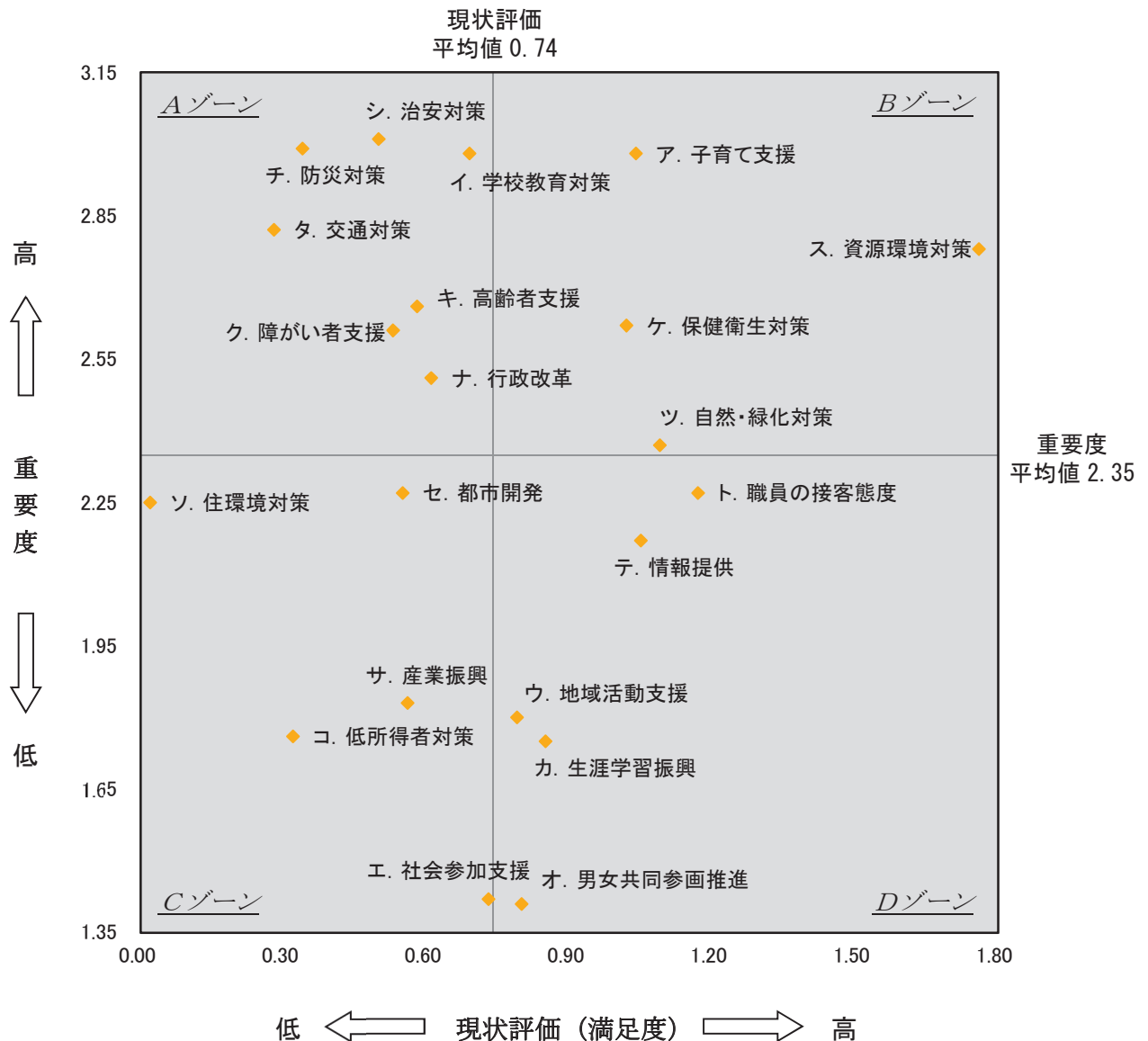
「資源環境対策」「保健衛生対策」「子育て支援」などは、現状評価、重要度の両面で高くなっています。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「住環境対策」「低所得者対策」などは、現状評価、重要度の両面で低くなっています。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

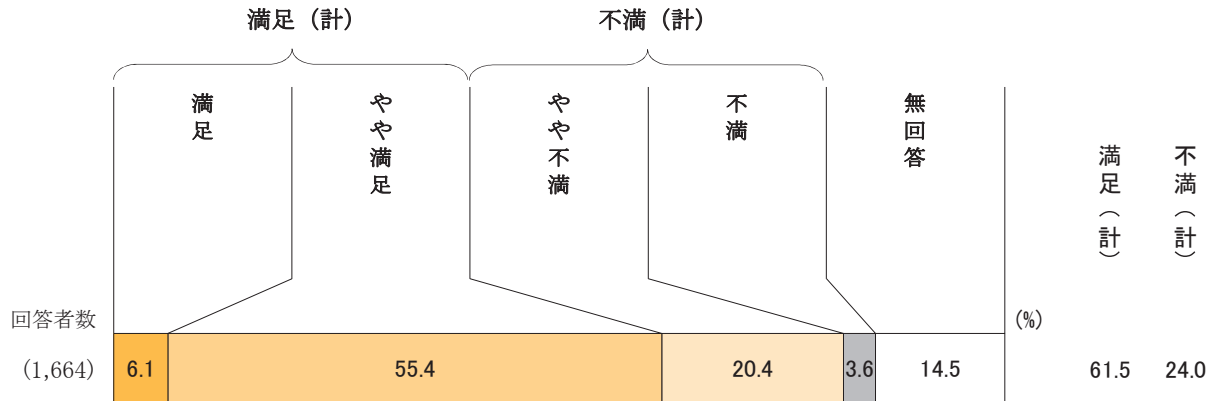
「情報提供」などがあげられています。





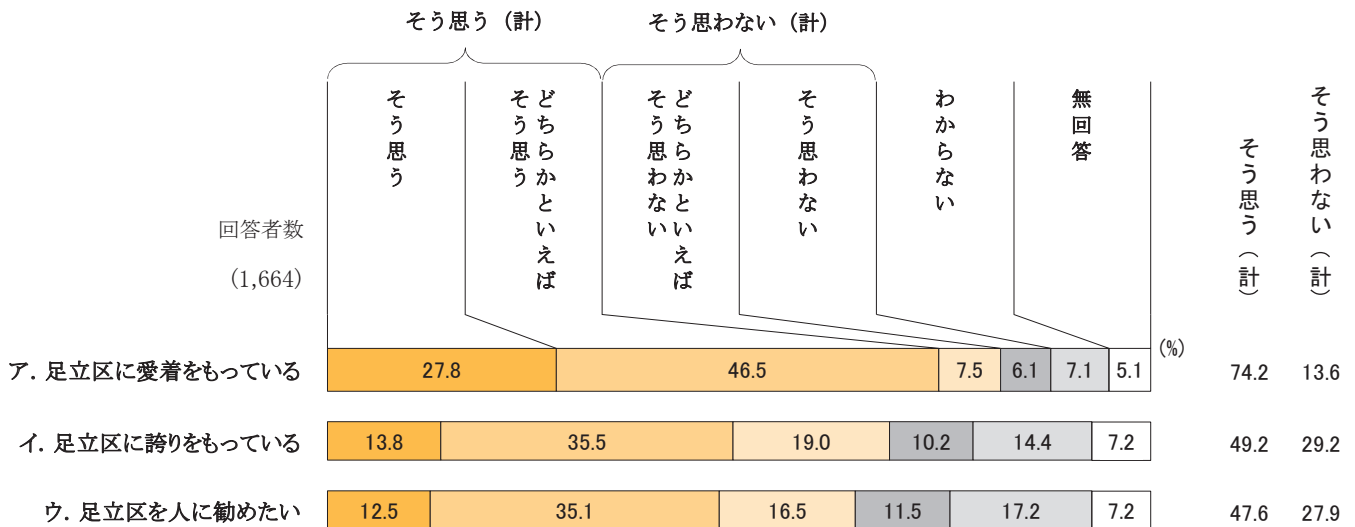
区政に対する満足度

【満足】は6割を超え、3年連続で上昇しています。



区に対する気持ち

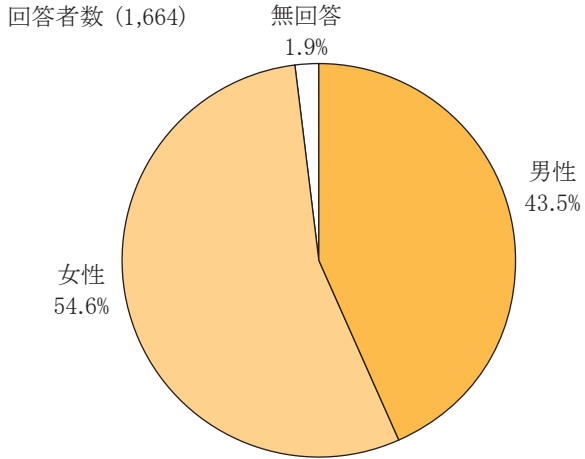
区に対する気持ちについて聞いたところ、【そう思う】は、〈足立区に愛着をもっている〉が74.2%で最も高く、〈足立区に誇りをもっている〉が49.2%、〈足立区を人に勧めたい〉は47.6%となっています。



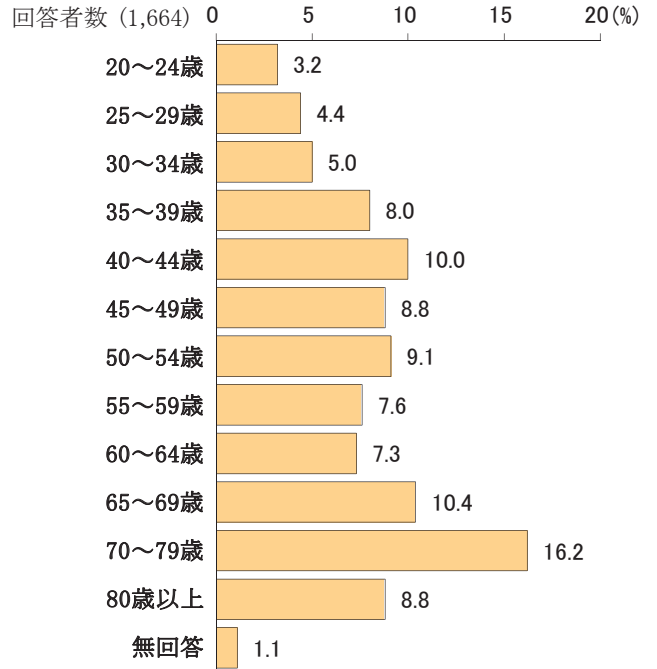
標本構成



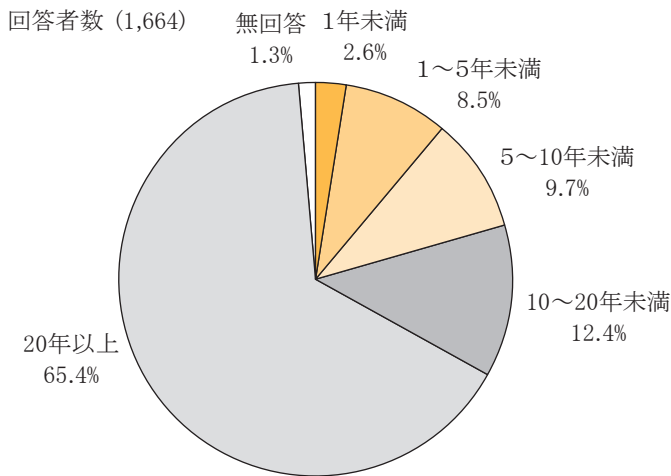
性別



年齢

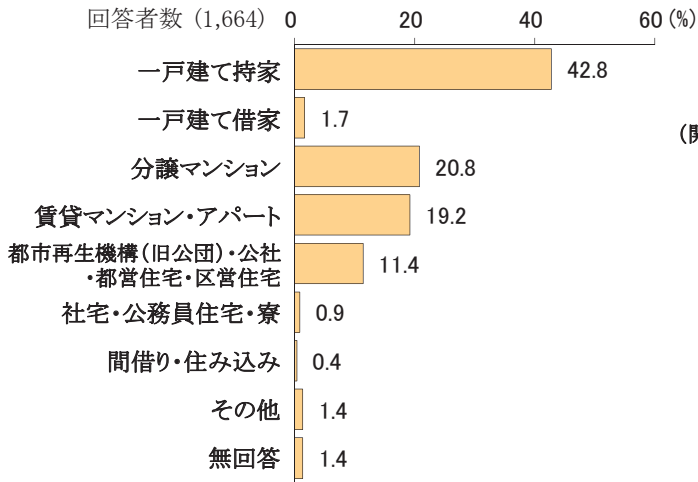


居住年数

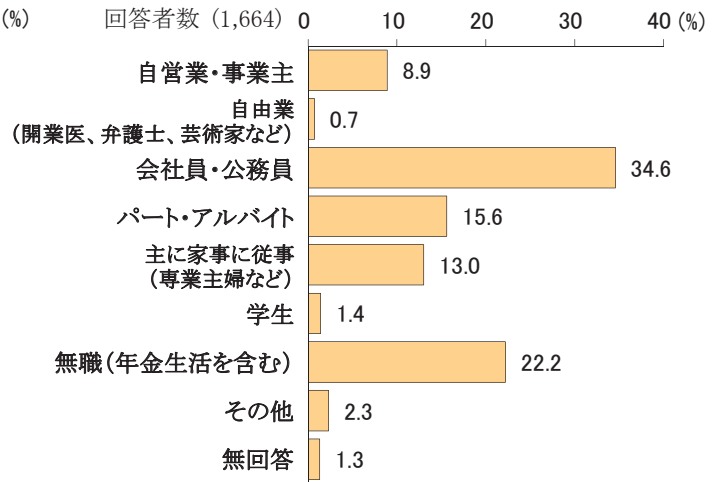




住居形態

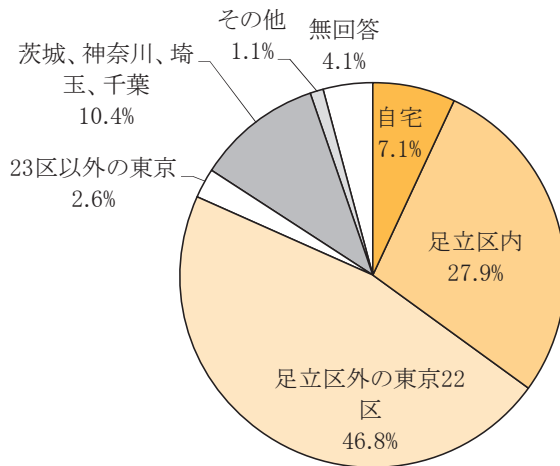


職業



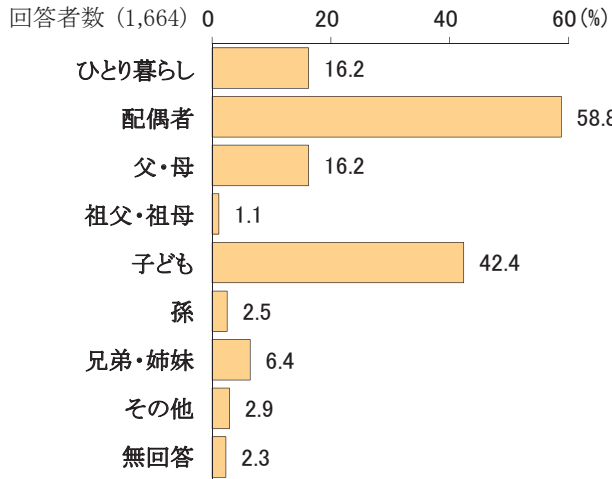
就労(就学)場所

回答者数 (1,039)

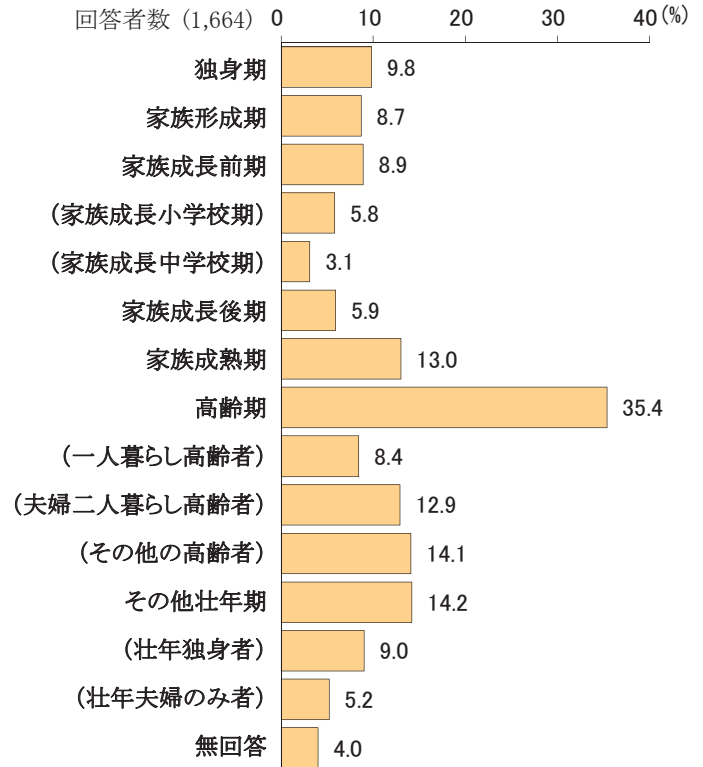




同居家族（複数回答）



ライフステージ



《 ライフステージの定義 》

ライフステージ別（7カテゴリー）

- ・独身期 40歳未満の独身者
- ・家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
- ・家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - (家族成長小学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 - (家族成長中学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
- ・家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
- ・家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
- ・高齢期 本人が65歳以上の人
 - (一人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 - (夫婦二人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 - (その他の高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
- ・その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 - (壮年独身者) 本人が40歳～64歳で独身
 - (壮年夫婦のみ者) 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦

足立区の面積 53.25km²
人口 685,447人
世帯 340,838世帯

*平成30年1月1日現在



足立区政策経営部広報室区政情報課

〒120-8510 東京都足立区中央本町1-17-1

TEL 03(3880)5111(代)

世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。
ホームページアドレス<http://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区政策経営部広報室区政情報課

この概要版は再生紙を使用しています。